

小野塚喜平次 政治学者。日本におけるアカデミズム政治学を創始し、政治そのものからの学問の独立に尽くした。

おのづかきへいじ  
廃藩置県・1871 = 新潟県長岡城下で、富裕な商人の子に生まれる。

明治6年政変 1873 = 2歳 :

..... 1880 = 9歳 :  
明治14年政変 1881 = 10歳 :

帝国大学始 1886 = 15歳 : 上京 ,

帝国憲法発布 1889 = 18歳 :  
第一高等学校を経て ,

日清戦争始 1894 = 23歳 :  
日清戦争終 1895 = 24歳 : 帝国大学法科大学を首席で卒業し、大学院に進み政治学を専攻。  
白馬会 1896 = 25歳 : {国家学界雑誌}に「政治学ノ系統」を发表。同級の高野岩三郎らと{ドイツ工業条例研究会}を創立、  
八幡製鉄始 1897 = 26歳 : 桑田熊蔵らにより{社会政策学会}となる。文部省より在外研究を命じられて、ドイツ・フランスに留学、  
子規句歌革新 1898 = 27歳 : マックス・ウェーバーら錚々たる学者を擁するドイツのハイデルベルクに学んだ後、ベルリンから、  
パリに移動し、私立政治学学校の創設者プトミーに親炙して影響を受け、さらにイギリスに渡り、  
ビ7/国産化 1900 = 29歳 : 留学中に、帝国大学法科大学の助教授に任じられ、  
田中正造直訴 1901 = 30歳 : アメリカ合衆国を経由して\*帰国、母校で日本最初の政治学講座の専任教授となる。

日比谷公園 1903 = 32歳 : \*我が国最初の体系的な政治学書「政治学大綱」において、「国家ノ事実的の説明ヲ其政策ノ基礎ヲ論スル学」であると規定し、国家学からの独立を宣し、同年、対露強硬外交の意見書を桂太郎首相に提出したことによって起こった、七博士建白事件では「大学の独立と研究の自由」を守るべく抗議。

日露戦争終 1905 = 34歳 : \*同僚教授がポーツマス条約を批判して休職になった「戸水事件」にも抗議したが、以後、研究に専念し、{国家学界雑誌}{法学協会雑誌}等に寄稿して行く。早くから民衆主義に着目し、

韓国反日暴動 1907 = 36歳 :  
アヲヲ 創刊 1908 = 37歳 : 「欧州現代立憲状況」,

明治天皇没 1912 = 41歳 :  
大正政変 1913 = 42歳 : 「現代欧洲之憲政」,

民本主義 1916 = 45歳 : 「欧洲現代政治及学説論集」  
ロシア革命 1917 = 46歳 : 帝国学士院会員、  
本格政党内閣 1918 = 47歳 : 法科大学長、

原敬首相暗殺 1921 = 50歳 :

護憲三派圧勝 1924 = 53歳 : この年、{社会政策学会}は活動を停止。  
治安維持法 1925 = 54歳 : 貴族院議員となる。  
円本時代始 1926 = 55歳 : \*「現代政治の諸研究」などの著書や論文集によって、現実政治の実証的研究方法を具体的に示した。以後、ほとんど学術論文を公表することなく、  
共産党事件 1928 = 57歳 : 病気の古在由直のあとを受けて東大総長となり、

満州事変 1931 = 60歳 :  
再選されて、軍国主義化の中で大学の自治を守るために努力。

帝人疑獄事件 1934 = 63歳 : この年まで続けた。  
芥川直木賞始 1935 = 64歳 : 学士院第一部長、

日中戦争始 1937 = 66歳 :

日米開戦 1941 = 70歳 :

創価学会検挙 1943 = 72歳 : 公職を辞して、  
年金+総武装 1944 = 73歳 : 没した。  
吉野作造、南原繁、嵯山政道、矢部貞治などの学者を育てた。